

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(静岡県)

実施主体名	静岡県かんしょ輸出促進協議会
参画事業者	ジャパンベジタブル、日本農業、静岡県、タタラ商店
対象品目 対象国・地域	かんしょ：タイ、シンガポール、台湾、香港、マレーシア、カナダ、ドイツ、オランダ

推進体制の構築

- 生産について、他品目からの転作や荒廃農地からの生産を通じて作付拡大を円滑に遂行できるよう、技術指導や営農資材提供が可能な民間業者、JAに対して積極的にマッチングを実施
- 物流について、参画事業者による最適な現地港までの輸送経路を検討、輸送資材の着荷効果を検証
- 販路開拓について、現地の消費者動向や輸入規制等の情報交換を実施、関係各所へ現地調査内容を共有

生産の転換

- 浜松市、袋井市、磐田市、掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市、裾野市、伊豆の国市にまたがるエリアで、主に耕作放棄地だった農地を新たに開墾するほか、昨年の事業で開墾した農地でも継続して他品目からの青果用かんしょへの切替えにより作付面積を継続拡大
- 昨年度事業から耕作放棄地での新規作付けを実施している農地に対して、土壌診断を行い、数年計画で土壌改良を実施
- 育苗棟の集約化による苗の安定供給の実現や、営農管理ツール「アグリノート」を活用した営農管理の効率化を推進
- 有機性の肥料の使用割合を高め、化学肥料農薬の使用量を慣行栽培比で半分とする栽培試験や、静岡では古くから取り組まれてきたマルチを使用しない畝立て方法を実施、新品種「高系14号」の試験生産を実施

流通の転換

- 出荷段ボールやパレット等の輸送用資材を海上コンテナへの積載を前提に抜本的な寸法規格の変更を実施し、現地での着荷状態を確認
- 輸送用段ボールを通気性が担保できる設計に改良するとともに、千葉県銚子市に位置する金正水産の保有するキュアリング設備を用いて、試験的なキュアリング処理を実施し、品質保持期間を延長することで、着荷状態を安定化
- 契約農家の数、耕作地の市町の範囲の広がりに対応するため、各生産拠点から10t車での一括集荷を試験
- 海外マーケットニーズに応じるため、グラム単位で選果基準を海外顧客の要望に応じて設計。設計においては特に日本基準の2S-Sサイズに該当する小玉サイズの重量基準を中心に各国向け輸出規格の設計を実施
- 東南アジアはタイ、欧州はオランダをハブとして物流基盤を強化し、小ロットだがニーズのある近隣の第三国への輸送を実現し、先駆的に市場創出への取組を実施

輸出額目標 (百万円)

品目	令和4年度	令和7年度
かんしょ	9	350

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(静岡県)

実施主体名	静岡茶輸出拡大協議会
参画事業者	静岡県、茶商（流通サービス、やまも満寿多園、山啓製茶）
対象品目 対象国・地域	茶：米国、欧州・英国、東南アジア

推進体制の構築

- ▶ 有機栽培推進コーディネーターを設置し、有機茶生産への転換をサポートするとともに、普及指導員やJA営農指導員へ有機栽培の知識等を提供し、人材育成を推進
- ▶ 県域研修会を開催し、輸出や有機栽培拡大の研修を実施
- ▶ 輸出支援PFと連携し、各茶商グループによる国内外の展示会への出展等を支援

生産の転換

- ▶ 牧之原地区の検証圃（119a）で、有機転換茶園での高品質碾茶生産に適した被覆栽培体系を検証
- ▶ 掛川地区の検証圃（482a）で、高品質な有機茶生産を可能にする有機質肥料の検証及び天敵製剤、蒸気除草機の活用による防除効果を検証
- ▶ 袋井地区の検証圃（138a）で、高品質な有機碾茶の生産に必要な管理作業（有機質肥料、直接被覆資材及び緑肥）を検証

流通の転換

- ▶ 地元港湾である清水港を活用し、県内茶業者が連携した茶の混載輸送によるコスト低減効果を検証
 - ① 昨年のシアトル向け混載実証を踏まえ、輸出する者が多いロサンゼルス向けに実証を実施
 - ② 米国と比較して小規模な取引が主流と思われる東南アジア向けの実証を実施
- ▶ 県内茶事業者を中心とした混載輸送の事業化に向けて、集荷拠点への集荷やバンニング、輸出手続等の対応可能性と手数料試算の検証を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
茶	4,800	5,800

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(新潟県)

実施主体名	新潟県（錦鯉）
参画事業者	新潟県、新潟県内水面試験場、養鯉生産者、JETRO、全日本錦鯉振興会新潟地区、新潟県錦鯉協議会、長岡市、小千谷市
対象品目 対象国・地域	錦鯉：北米、アジア（香港、タイ、スリランカ他）、ヨーロッパ（フランス、オランダ、ドイツ他）、その他（南アフリカ、U A E 他）

推進体制の構築

- 年2回、全ての関係者を招集した協議会を開催、実績の確認や次年度方針の決定、研修会等を実施
- 輸出支援プラットフォームと連携し、輸出先国での購買層が集まるイベント（大使館レセプション等）で、県ブースを設営し、錦鯉の生体やレプリカの展示、ノベルティの配布、国内での購入先の紹介などを実施

生産の転換

- 新潟県内水面水産試験場にて、魚病対策技術開発として、簡易な刺激でKHVを活性化させ、定量PCRで検査することでウイルスの検出精度を高めるとともに、飼育水検査を導入することで、群れ全体の検査精度を高める魚病対策技術を開発
- 新潟県内水面水産試験場とNTT東日本・東京農工大学の共同研究で、AIを活用し、外部形態画像や腹部エコー画像により早期（30cm前後の若齢魚）に雌雄判別を行う生産性向上技術を開発

流通の転換

- 新潟空港の定期就航便を利用した、トランジットによる高品質で安全な輸送試験を実施
 - ・ 発泡箱を利用し、トランジットによる遠方への輸送をトライアルし、到着後の品質やコスト面について検証
 - ・ 夏場の輸出のニーズに応えるため、上記の発泡資材を利用した夏場の輸出の可能性を検証
- 航空会社、観光業界等と連携して、旅客利用との併用の可能性について検討

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
錦鯉	3,227	4,407

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(新潟県)

実施主体名	新潟県 (コメ)
参画事業者	新潟県、ジェトロ新潟、クボタ、新潟クボタ、生産者 (百笑会ほか)、新潟農商
対象品目 対象国・地域	コメ：米国、タイ、香港、シンガポール

推進体制の構築

- 輸出支援プラットフォームによる現地情報等の共有や、現地事業者・小売店と連携した新たな商流開拓
- タイ「THAIFEX 2024」へ、東北6県と共同で出展し、日本米の試食とあわせたPRと商談を実施
※一般社団法人東北経済連合会とりまとめ
- 新潟米の紹介用英語パンフレット等の作成

生産の転換

- 輸出用米の価格競争力を高めるコスト削減に向けて、
 - ① 多収品種「ゆみあずさ」の栽培実証 (面積2.3ha) を行い、生育状況調査や輸出先のバイヤーを対象にしたアンケートによる品質・食味調査を実施し、コシヒカリからの転換を推進
 - ② ドローン等による直は栽培の実証 (面積2.7ha) を行い、作業時間や播種～定植の生産コストから、作業の効率化、省力化を検証

流通の転換

- 新潟港の活用によるアメリカ (ハワイ) 向けの効率的な流通構築に向けた実証を実施し、新潟から陸送して京浜港から輸出するルートとの比較を実施
- アメリカでの業務用需要を取り込んだ新規商流構築のため、輸出支援プラットフォームと連携し、輸出先のニーズに対応した生産や集荷体制の検討、大手ケータリング事業者向け冷凍弁当の試作、現地評価の調査、現地法人と連携した新潟米プロモーションを実施
- 大規模産地形成に向け、県内最多の米生産者を抱える新潟市地域において輸出産地拡大のきっかけづくりを行うため、アメリカ、香港、シンガポール輸出に向けた輸出に参画する生産者等を公募し、ジェトロ新潟と連携してバイヤー招聘により商談会を実施

輸出額目標 (百万円)

品目	令和4年度	令和7年度
コメ	68	92